2023年01月17日（火）【外為Ｌａｂ】松田哲
タイトル：【今日明日の日銀金融政策決定会合】

日銀の金融政策決定会合が、今日明日（2023年1月17日、18日）に行われます。

この日銀の金融政策決定会合で、「さらなる金融政策の修正（変更）をするのではないか？」と、マーケット（金融市場）は、疑心暗鬼になっている、と考えます。

++
++

先月（2022年12月20日）の日銀の金融政策決定会合では、長期金利の変動幅を従来の「プラスマイナス0.25%程度」から「プラスマイナス0.5%程度」に拡大した。

この日銀の政策変更を受けて、低い水準に抑え込まれていた長期金利が急上昇した。

日銀は、政策金利は据え置いたものの、長期金利の上昇を認めた格好になり、事実上の金利引き上げと、マーケット（金融市場）は判断した、と考えます。

++

先月（2022年12月20日）の日銀の金融政策決定会合の前の時点では、マーケット（市場参加者）の多くは、政策変更は無い、と予想していた。

だから、先月（2022年12月20日）の日銀の政策変更は、大きなサプライズだった。

++

通常の各国の金融政策は、「市場との対話」を重視している。

つまり、各国の金融政策の担当者は、マーケット（金融市場）に相応のヒント（示唆）を提示する。

そして、市場参加者は、そのヒント（示唆）を読み解き、金融政策の方向性を判断、理解する。

金融政策は、各国の経済や、それぞれの国民の生活に大きく影響を与える。

換言すれば、金融政策の変更は、企業の資金調達コストに直結するし、個人の住宅ローンなどの借り入れ金利も変更される。

だから、企業や個人に与える影響を緩和するためにも、「市場との対話」が必要とされる。

++
++

ところが、先月（2022 年 12 月 20 日）の日銀の金融政策決定会合での金融政策の変更は、全くの「寝耳に水」と言っても良いタイミングであった。

++
++

前回（2022 年 12 月 20 日）の日銀金融政策決定会合では、「市場との対話」が無い状況下で、金融政策の変更が行われた。

だから、今日明日（2023 年 1 月 17 日、18 日）の日銀金融政策決定会合でも、相応のヒント（示唆）も無く、抜き打ちに、「何かしらの金融政策の変更が行われるのではないか？」と、マーケット（金融市場）が、疑心暗鬼になっているのだ、と考えます。

++

マーケット（金融市場）は、以下の点も判断している、と考えます。

現在の状況下で、「何かしらの金融政策の変更」とは、「金融引き締め方向の政策」しかありえない。

++
++

（2023 年 01 月 17 日東京時間 15：00 記述）